

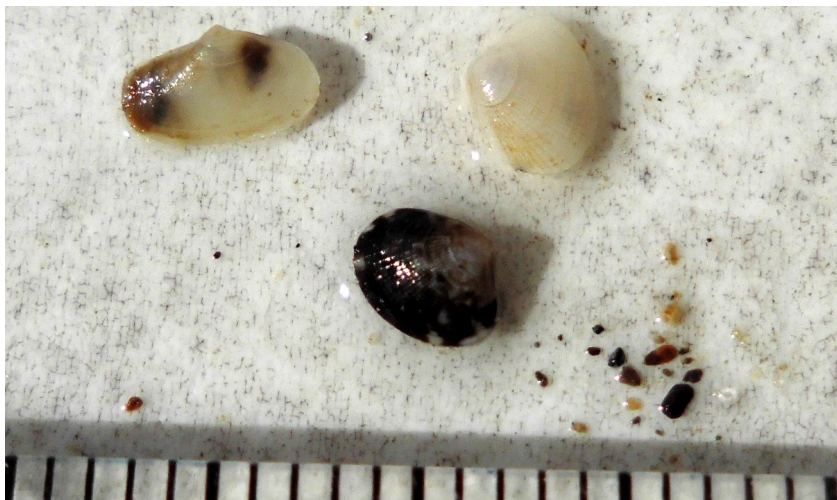
春を待つ生物

■水中で春を待つ生物

気温・水温が下がり、水中で採集を試みても網に入る生物は少ない。今回の調査ではエビジャコ仲間 (Fig.1)、小型のアサリ・ソトオリガイ (Fig.2) を採集した。また、ゴカイの仲間の巣穴が数多く観察された (Fig.3)。静かな干潟であるが、網にかからないような、小さな生物は多数生息しているのであろう。



(Fig.1 エビジャコの仲間)



(Fig.2 ソトオリガイ アサリ)



(Fig.3 ゴカイの仲間の巣穴)

■干潟で過ごすカモの群れ

蒲生干潟では多くの鳥類が、冬を過ごしている。今回の調査ではマガモ等の群れが観察された。潮の引いた泥地では、餌を探すハシブトガラスが見られた。

(Fig.4 カモの群れ)

